

## 文科省管轄SPPの採択で 理科教育をさらに推進

SPP(サイエンスパートナーシッププロジェクト)とは、文科省管轄の科学技術振興機構が、科学技術等に関する高大連携などを支援するもの。2011年度に採択された同高校の取り組みはどんなものなのか?

「本校で理科教育の充実が課題としてあがってきた

たのは、5年程前のことです。理論的指導はできていましたが、実験指導がまだ十分とは思いませんでした。そこで、実験を取り入れた授業を増やすと、生徒が集中し、自分自身で関心をもつて授業に取り組むようになったので「す」と話すのは、SPP事業の担当者・大津豊隆

先生だ。

「実験では、目の前に対象物があるので、実感をともなった理解ができるようになりました」。その中で、より高いレベルで科学的体験をさせたいと大学と連携した大学出張講座を導入した。その最大の目的は、高校では実施しがたい大学レベルの講義や実験を行うことで、高校で学ぶことが、大学での学びにどうつながるのかを理解させることにある。

で学んでいることが、大学レベルの基礎部分になっていることがわかった」「高校で学ぶ範囲をしつかり身につけて大学に進み、さらに深い内容を学びたい」といった感想もあがり、導入の目的を十分に果たしているようだ。2年生を対象とし、特進・選抜クラス以外は自由参加だが、意欲的な1年生が参加することもあるそうだ。

2008年に、単発のイベントとして初めて実施。翌年度からは年に複数回実施するようになった。2011年度の講座テーマは「プラズマとは何か」「分光器の製作と分光分析」「物質の創成とその応用」など全6回に渡る。

大津先生は「科学は、自分で調べ、企画し、具体的に行動できる力が必要で、それは社会でも同じです。それは社会でも同じです。皆が科学者になるわけではありませんが、社会人になるための能力として、論理的思考も身に付けてほしいと願っています」と期待を込めて語ってくれた。



「物質の創成とその応用」で、自作の分光器を実際に使っている様子。



ふだんの授業でも実験は充実。生徒たちの目も真剣だ。

生徒からは「現在高校